

12A

寄書

積年の習慣を破るへし

東京婦人矯風會々員 佐々木とよ子

婦人矯風會創立役員撰擧の當日左の一言を瀆んとせしが生憎短かき冬の日の朝より曇る天合は今にもみぞれの降んかど迄寒き模様と變はり其上海老名田村の二先生高き論しの話もあり尙も其後投票の事務もあるかど二時が四時の日暮まで少しの間もあらざれば司會者來會諸君の迷惑を推察あして止みたりしも思込なる一言を黙して言ざるも己か誠を盡さざる不親切にや成かんと歸宅後筆とり演説の大意を述るあらましは

魚は水中に在て水を見ず人は氣中に在て空氣を見る能はず人間動物凡て此の如し己れの周圍を取巻く所のものは却て目にも耳にも感觸せざる事多し人間には耳目口鼻の五感あれども時としては疼をも痒をも善も惡も感覺し判斷し難き入落入る事あり

百年數億の人之を一網に包み籠て其耳目口鼻をして一向に至極の反對の方角に向はしむるあり此間に賢人家傑の人物ありと雖も一網の中に包み籠められ卓見高論も凡て其論點を誤る

事あり之を積年の習慣と云ふ

積年の習慣は其腹原惡を問はず一切世間を支配するものにして非常に驚くべき勢力を保つて屢意外の大害を起す事多し遠くは羅馬の末代吾邦王代の末季の如き近くは徳川氏末代の如き數百年の習慣は天性と成り知らず善惡邪正を取違ひ悲むべきを喜び喜ぶべきを歎くか如き弊害の習慣は眞に名狀すべからざるに至れり

明治廿年の日本婦人よ百年習慣の弊害を吾人諸共に其胸裏より放ち出し其胸腹には新鮮なる婦人天賦の正道を包み藏めよ此正道を包み藏めざれば百事百物何事も雲霧の中に歩行して東西を分ち兼ね已か行先の何れあるを問ふ等しかるべし

百年習慣の久しき吾人婦人社會をして口ありても言ふ能はず考へあるも之を述る能はず偶婦人の一言一行世人の意表に出る如きあれば父母親戚より一世社會の擯斥する所となり尤て婦人と言ふものは士誰か張扱人形に比しき迄に露入らしめたり歎きても飽尾ぬと云べし

婦人已れ亦此習慣の弊害あるを知らず黙して一言を發せざるを婦人の徳義と心得選て一事を爲ざるを婦人の善行と思ひ唯善惡邪正も喜惡愛樂も良人の氣儘次第にて已れば此感情と

云ふものを知らざるまでに不具の片輪ものど成りたるあり
 それ婦人天より賜ふ所の義務は男子と違も異なる所なく頗る
 多きものにて一家一村一國の事に至るまで男子と力を併せ教
 育に農工に製造に社會萬般の事にまで男子の及ばざるを補翼
 して一國の品位を高尙に進達せしむべきなり今の時は何ぞ世
 界婦人中に於て日本婦人第一に多忙の時に達ぬるを然るに百
 年の積弊習慣は深く日本婦人の五感を失せしめ死脈に非れ
 ば土偶木偶の如く善惡邪正を辨別せしめざるまでに落入たる
 ぞ
 苟も利害を判断する五官(耳目口鼻舌の五官)を各々所有して
 判断力を保つる已上は先づ第一に己が胸中を新鮮にして百
 年の積弊習慣を破らざるべからず今や日本世人の輿論は早已
 に婦人の地位を高尙に爲さんと欲するに至れり此は是千歳未
 曾有の好機會に向ひたる時と言へし婦人に取て至極幸福の時
 節到來するべし
 然れども茲に尤難儀なるは婦人の習慣を改むるの事あり積年
 の習慣を改むる最も難し殊に婦人の積年の習慣を改むる尤も
 難き内の難きものあるべし佛國第一世ナポレオンの言に婦人
 の習慣を改むるは尤も難しと夫れナポレオンは歐洲列國の恐

る、所の深傑の士にして若て世界に能はずと言事かし(不能)
 の二字は愚人の字書中にあるものなりと言はれし人にては
 此言あるをれば婦人の行を改むるは非常の難事あるべし
 夫ナポレオンの言は他人より婦人の行爲を改めんとせし事か
 れども今此十九世紀の婦人は已れ等先づ卒先して自ら改更せ
 んど欲する事かれば能はずと云ふは矢張ナポレオンの言れた
 る如く婦人改更の事に付ては無用に屬すべし
 今此に設立せる婦人篇風會の事務順序頗る多し然れども先づ
 吾々の周囲を取巻く所の習慣を打破らざれば何事も眞者に話
 しを聞せ盲者に五色を説明せんと欲するに比しければ此習慣
 を打破るを第一編の要務と爲しぬ

